様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５３２６３

研究課題名（和文）タイにおけるイスラーム圏留学の実態とその留学モデル構築に関する実証的研究

研究課題名（英文）A Study on Actual Conditions of Thai Muslim Students' Overseas Study in Islamic Countries

研究代表者
Ｓ　Ｋａｍｐｅｅｒａｐａｒｂ（Kampeeraparb, Sunate）

名古屋大学・国際開発研究科・講師

研究者番号：９０３６２２１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,600,000円、（間接経費）　780,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、タイ人ムスリム留学生を対象に、イスラーム諸国への留学実態について、送り出し国と受入れ国の相互関係を踏まえ明らかにし、イスラーム圏を軸とした新たな留学モデルの構築をはかることにある。
送り出し側のタイ政府は、留学各段階においてムスリム学生支援施策を実施しているが、その背景にはタイ国内での受け皿を作ることを通し、宗教をめぐる国内の紛争解決に資することが期待されている。受入れ国エジプトおよびマレーシアの大学においては、宿舎などの受入れ体制が整備され、留学生支援組織も積極的な活動を行っている。帰国後に役立つアラビア語や英語といった言語教育にも重点が置かれ、これがプル要因となっている。

研究成果の概要（英文）：This research aims at finding out real situations of Thai Muslims pursuing their study abroad in two selected Islamic countries: Egypt and Malaysia. It analyzes push and pull factors of study abroad in order to construct a model of study abroad in Islamic countries.

Thai government has launched several measures to support Muslims students' overseas study. These measures are useful in alleviating tension regarding religion-related domestic conflicts. Universities accepting Thai Muslims in Egypt and Malaysia are enthusiastic about receiving international students and provide comfortable study and living environment such as dormitories for them. After completing their study, their language skills such as Arabic and English are useful for their future career. This can be considered as a key pull factor.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：タイ：エジプト：マレーシア　ムスリム　留学交流　高等教育

１．研究開始当初の背景

タイでは、人口の約５％（約 310 万人）がムスリムであり、マレーシアと国境を接するタイ深南部ではマレー系ムスリムが人口の70～80%という多数派を占めている。ムスリムのイスラーム教育に対する需要は高く、後期中等教育段階まではイスラーム教育を受ける機会がある程度整備されているが、タイ国内の高等教育機関においてイスラーム関連科目が開設されているのは、国立１校（ソンクラーナカリン大学パッタニー校）、私立１校（ヤラー・イスラミックカレッジ）の計２校にすぎず、高等教育段階でイスラーム教育を受ける場合、イスラーム圏への留学に頼らざるをえない。

こうした状況にもかかわらず、従来のタイの留学施策や留学に関する研究においては、米国、オーストラリア、英国、日本といった先進国への留学ばかりが扱われ、イスラーム圏への留学が対象外とされてきたため、その実態はほとんど解明されていない。さらに、主要留学先国とされる米国、オーストラリア、英国、日本へのタイ人留学生総数が合わせて約１万９千人（2002 年ユネスコ統計）であるのに対し、イスラーム圏へのタイ人留学生総数は３千人弱（2007 年タイ外務省統計）に上っており、タイの留学現象を分析する要素として無視できない規模になっている。同統計によるとイスラーム圏の主要留学先国としては、①エジプト 1,700 名、②マレーシア 300 名、③スーダン 220 名、④パキスタン 200 名、⑤サウジアラビア 170 名となっており、エジプトへの留学が圧倒的多数を占めている。また近年、タイ政府は外交戦略上、イスラーム諸国との交流を重視するようになっており、2004 年には、エジプト・アズハル大学のタイ分校設立に向け本格的な交渉が行われるなど、タイからイスラーム圏への留学交流の実態を明らかにし、留学交流や高等教育戦略上の課題や今後の改革動向を分析する重要性がますます高まっているといえる。

２．研究の目的

本研究の目的は、タイ人のムスリム留学生を対象に、イスラーム諸国への留学の実態について、送り出し国と受入れ国の相互関係を踏まえて実証的に明らかにし、イスラーム圏を軸とした新たな留学モデルの構築をはかることにある。

本研究が目指す〔イスラーム圏における留学モデル〕の構築、すなわちムスリムのイスラーム圏への留学現象の構造的解明は、単に研究の未開拓領域を埋めるのみならず、後に述べるように従来の〔先進国－途上国間の従属論的留学モデル〕とは異なる新たな理論的視座を提供しうる点で革新的であるといえる。

３．研究の方法

本研究では、タイ人のムスリム学生を対象に、マレーシアとエジプトへの留学の実態とその背後にあるイスラーム圏への留学の構造的要因を明らかにするべく、具体的に以下の４点について実証的に分析・検証することとする。研究プロセスの概要は先に示す通りである。

（１）タイにおけるイスラーム教育の現況とムスリム留学生の送り出しの実態解明
（２）マレーシア、エジプトにおける留学生受入れ政策・支援体制と受入れ状況の実態解明
（３）タイ－プッシュ要因とマレーシア、エジプト－プル要因分析を通した相互関係の把握
（４）〔イスラーム圏における留学モデル〕の構築作業

マレーシアは、南部タイと基本的に民族、歴史、文化を共有し物理的距離も近いことから、エジプトは、タイとの留学交流に対し積極的な人的・物的支援を行っており、留学生の受入れ実績が圧倒的多数であることから、考察の対象として選定した。

４．研究成果

（１）（初年次）送り出し国タイの状況把握と分析枠組みの構築

平成 23 年度の研究目的は、送り出し国タイの状況把握と分析枠組みの構築である。具体的に、①タイにおけるイスラーム教育政策・制度とその実態、および②タイにおけるムスリムを対象とした留学交流の行政施策、支援体制の分析・解明を実施した。また、先行研究を検証したものの、それを踏まえた本研究の分析枠組みの構築は次年度に引き続き作業を続ける予定である。

実施した現地実態調査　（タイ）では、タイにおけるイスラーム教育の概況とムスリムを対象とした留学交流施策・支援体制の把握をするため、データ収集を行った。タイの教育行政官庁や教育行政部門、イスラーム教育実施校・高等教育機関を訪問して、インタビューや資料収集等の調査を行い、タイのイスラーム教育の枠組みとその概要を明らかにした。具体的には、①イスラーム教育の実施体制と現状、②ナショナル・カリキュラムの中でのイスラーム教育の位置づけ、③ムスリムのアーティキュレーションの実態、について調査を行った。また、①ムスリム対象の留学交流の基本施策、②ムスリム対象の留学交流支援組織の体制と支援項目、③ムスリム留学生の送り出しの実態、についても解明した。

（２）（第２年次）主要受け入れ国エジプトにおける留学交流状況の把握

第２年次にあたる平成 24 年度の目的は、タイ人ムスリム留学生の主要受入れ国マレ

ーシア、エジプトにおける留学交流状況の把握であった。その具体的な研究課題は、①タイ人ムスリムを対象とした留学交流制度・支援体制の把握し、②送り出し国と受入れ国の相互関係を解明することにあった。

実施計画段階においては、２カ国について現地調査を実施する予定であったが、調査経費、日程、および調査協力依頼上の問題からエジプト１カ国に絞り調査を行った。

具体的な調査内容としては、①イスラーム高等教育の実施体制と現状、②ムスリム留学生の受け入れ・支援体制、③タイ人ムスリム留学生の実態、について調査を行い、その状況を解明した。

（３）（最終年次）受入れ国マレーシアにおける留学交流状況の把握と〔イスラーム圏における留学交流モデル〕の構築

最終年次にあたる平成 25 年度の研究実施計画は、受入れ国マレーシアにおける留学交流状況の把握と〔イスラーム圏における留学交流モデル〕の構築である。その具体的な課題はタイ人ムスリム留学生の主要受入れ国であるマレーシアを対象に、①タイ人ムスリムを対象とした留学交流制度・支援体制を把握し、②送り出し国タイのプッシュ要因、受入れ国のプル要因について相互関係を解明し、③総括的な分析により〔イスラーム圏における留学モデル〕を構築することにあった。

研究の実施にあたっては、マレーシアにおける留学交流状況を把握するべく現地調査を行った。具体的には、①イスラーム高等教育の実施体制と現状、②ムスリム留学生の受け入れ・支援体制、③タイ人ムスリム留学生の実態、について調査を行い、その状況を解明した。さらに、エジプトおよびマレーシアでのフィールドワークによって得たデータを分析し、研究グループ間で〔イスラーム圏における留学モデル〕の特質を検討した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５　件）

<u>鈴木康郎</u>「援助政策・体制（タイ－被援助国から新興援助ドナーの転換に向けた取組み）」村田翼夫・佐藤眞理子編著『南南教育協力の現状と可能性－ASEAN 新興ドナーを中心に－』協同出版, 2013 年, 51-64 頁, 査読無。

<u>鈴木康郎</u>・<u>カンピラパーブ スネート</u>「タイ－高等教育の大衆化と ASEAN 統合に向けた国際的地位の向上－」北村友人・杉村美紀共編『激動するアジアの大学改革－グローバル人材を育成するために－』上智大学出版，2012 年，83-98 頁，査読無。

<u>カンピラパーブ スネート</u>「仏暦 2544 年基礎教育カリキュラム」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂，2012 年，337-337 頁，査読有。

<u>鈴木康郎</u>「私立イスラーム学校（タイにおける）」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂，2012 年，227 頁，査読有。

<u>鈴木康郎</u>「ポンドック（マレー）」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂, 2012 年，362 頁，査読有。

〔学会発表〕（計　３　件）

<u>カンピラパーブ・スネート</u>、<u>鈴木康郎</u>「タイ人ムスリム留学生に見るエジプト留学の実態とその要因に関する考察」日本比較教育学会第 49 回大会，2013 年 07 月 07 日，於：上智大学

<u>Sunate KAMPEERAPARB</u> and <u>Koro SUZUKI</u>, “A Consensus on Education for ASEANness in ASEAN Countries”, The Comparative Education Society of Asia, 9 July 2012, Chulalongkorn University, Thailand.

<u>鈴木康郎</u>「アセアン諸国におけるアセアンネスのための教育に関する合意形成」日本比較教育学会第 48 回大会, 2012 年 6 月 16 日, 於：九州大学

〔図書〕（計　－　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　－　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　－　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等　該当無

６．研究組織
(1)研究代表者
Ｓ カンピラパーブ（S Kampeeraparb）
名古屋大学・国際開発研究科・講師

研究者番号：９０３６２２１９

(2)研究分担者

(3)連携研究者
鈴木康郎（SUZUKI, Koro）
高知県立大学・文化学部・准教授
研究者番号：１０３４４８４７